

## R4-09

## 学校と家庭及び地域と連携した交通安全への取組

- 管内 留萌管内
- 分類 通学路の点検 交通安全教室 安全教育 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 全校生徒を対象として警察と連携した交通安全教室の実施
- 2 異年齢交流を取り入れた児童が自分事として交通安全を意識できる取組の実施

## ■ 取組の実際

## ねらい

- 安全な歩行や正しい自転車の乗車方法等について理解を深める取組を通して、児童の交通安全に対する意識を高める。

## 内容

## ○ 地域との連携による「青空教室」

本校は許可制で自転車通学を認めており20%程度の児童が自転車で通学していることから、自転車による安全教育の充実を学校の重点として位置付けている。

本校の青空教室は国道を含む通学路を自転車走行のコースとしているため、実施に当たっては、駐在所員や交通安全指導員、町役場など地域の協力を得て、ヘルメットの着用についての指導、警察による自転車点検指導、自転車・歩行での通学に対する街頭指導を事前に実施している。

低学年を対象に安全な歩行について学ぶ歩行実技を行い、交通ルールを守った安全な歩行を交通指導員が見守る中で実践し、教員とともに学校付近の安全確認を徹底した。

また、中高学年では、自転車の交通ルールの確認と乗り方の指導を行うとともに、通学路を自転車で走行することによって、児童が主体的に学校付近の危険箇所を発見したり、再確認したりできるように促した。

最後には、全学年が自転車を使用して、中高学年児童が、低学年児童を先導し、通学路の危険箇所と安全な自転車の乗り方について確認するなどし、異年齢交流を取り入れることにより児童が自分事として交通安全を意識できるよう取り組み、交通安全についての意識を向上させた。



【講話の様子】



【歩行実技の様子】



【自転車実技の様子】

## 成果と課題

- 児童が、警察や交通安全指導員から説明を受けることにより、交通安全に対する正しい知識の定着を図るなど、交通安全への意識向上につなげることができた。
- 青空教室をとおり、児童に通学路での危険箇所を意図的に発見・再確認させることにより、学校の指導だけではなく児童が主体的に危険を発見できる通年の交通安全につなげることができた。
- 通学路が国道を通るため、危険性があることから、安全意識の高まった児童が、主体的に交通安全をドライバーに働きかけるような取組へ一層充実を図る必要がある。